

第51週の発生動向 (2004/12/13~2004/12/19)

1. 感染性胃腸炎については、**弘前保健所管内** (前週 104人 今週 235人) において**警報**が出されたため、他の地域についても注意が必要です。
2. 手足口病については、**八戸保健所管内**において第48週以降連続して、**警報**が出されています。
3. 水痘については、**五所川原保健所管内で注意報**が出されたため、他の地域についても注意が必要です。
4. インフルエンザについては、上十三保健所管内において患者報告がありました (迅速診断によりA型:4人、B型:2人)。

第51週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	定点数				
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		(前週からの増減)	インフル エンザ	小児科	眼科	基幹
(72) インフルエンザ									6	0.67			6	0.09	-14					
(60) 咽頭結膜熱									5	0.83			5	0.12	4					
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	2.50	32	3.20	10	1.11	1	0.20	14	2.33	8	2.00	85	2.02	18					
(62) 感染性胃腸炎	67	8.38	235	23.50	11	1.22	7	1.40	37	6.17	31	7.75	388	9.24	161					
(63) 水痘	11	1.38	20	2.00	16	1.78	28	5.60	21	3.50	4	1.00	100	2.38	32					
(64) 手足口病					30	3.33			28	4.67	18	4.50	76	1.81	30					
(65) 伝染性紅斑	1	0.13	1	0.10	1	0.11							3	0.07	-1					
(66) 突発性発疹	2	0.25	8	0.80	6	0.67	2	0.40			4	1.00	22	0.52	3					
(67) 百日咳																				
(68) 風疹					1	0.11							1	0.02	1					
(69) ヘルパンギーナ	1	0.13											1	0.02	-2					
(70) 麻しん(成人を除く)											1	0.25	1	0.02	1					
(71) 流行性耳下腺炎	4	0.50	1	0.10	8	0.89	1	0.20			2	0.50	16	0.38	1					
(73) 急性出血性結膜炎																				
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50					2	2.00					3	0.27	1					

	インフル エンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

は警報です。 は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) RSウイルス感染症 (五類定点把握疾患) 弘前保健所: 3人、五所川原保健所: 1人 (16年計 98人)
- (82) マイコプラズマ肺炎 (五類定点把握疾患) 八戸保健所管内: 3人 (16年計 113人)

病原体検出情報

弘前保健所管内の保育園において下痢、嘔吐、発熱を主症状とする集団発生があり、12月16日採取の便材料からノロウイルスが検出されました。

感染症の窓

ノロウイルス感染症

病原体・発生状況: 冬季の**感染性胃腸炎**の多くは**ノロウイルス**が原因です。全国及び青森県ともに11月以降から発生報告数が多くなります(図1)。また、感染症あるいは食中毒原因物質としても年々増加傾向にあります(表1)。

感染経路・予防: カキ、ウチムラサキ貝、シジミ、ハマグリなどの二枚貝が原因食品として知られています。また、食品を取り扱う人が食品を汚染することによって感染が拡大することもあります。食品の中心温度85以上、1分間の加熱で感染性はなくなるとされています。わずかな糞便や吐物を介して多くのヒトが感染する危険性があるため、**ふん便や吐物は静かに、次亜塩素酸ナトリウム(家庭ではハイター等)で浸すように消毒処理することが重要**です。冬期の乳児のおむつには本ウイルスが多量に含まれていることがあるため取り扱いには特に注意を払う必要があります。また、**汚物を処理した後や食品の取扱い前後**には消毒用石鹸等で頻りに手洗いを行うことが大切です。

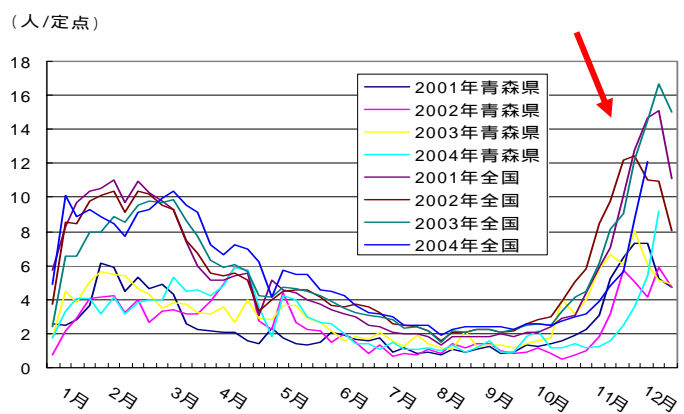


図1 過去4年間における感染性胃腸炎発生状況

表1 ノロウイルスによる集団食中毒集計結果

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
事件数	123	116	245	269	268	279
患者数	5213	5217	8080	7358	7961	10699